

平成27年度 愛・地球博成果継承発展助成事業について

27 地 研 ED 第 03261 号
平成 27 年 3 月 31 日
一般財団法人地球産業文化研究所

平成27年度の愛・地球博成果継承発展助成事業として、次の10件が採択されましたのでお知らせします。

なお、平成28年度愛・地球博成果継承発展助成事業の募集については、年内にも当財団のホームページ等においてお知らせする予定です。ご関心のある方はご留意下さい。

(単位:千円)

事業番号	団体名	区分	事業名称	事業内容	助成対象費用	決定助成限度額	採択理由
27-1-A	C. W. ニコル・アフアンの森財団	A	3つの輪プロジェクト ～農と自然と人との和を繋ぐ～	東京、埼玉、長野、宮城の様々な地域で学校、農業団体等と連携して実施している環境教育活動「農と自然と人との和を繋ぐ3つの輪プロジェクト」のより強化充実した事業活動等の実施。	7,275	5,800	子供達への環境教育、環境保全活動として評価できること。
27-2-B	大船渡復興まつり実行委員会	B	東北と世界を結ぶ祭博2015	岩手県大船渡市において、過去4年間開催された大船渡・東北三大まつりを通して、大船渡地域の震災復興やふるさと回帰、また、持続可能な地域づくり、国際的な祭博への発展を目指しての活動を実施。	15,758	7,500	東日本大震災被災地における環境教育、国際交流活動教育活動として評価できること。
27-3-B	輪島商工会議所	B	2015年ミラノ国際博覧会への出展等協力事業	ミラノ博日本館、同イベント広場、ミラノ・ホームにおいて、輪島塗の器や能登の里山里海からとれる農水産物、里山里海のコミュニティの結束を強めた御陣乗太鼓等を出展実施。	9,560	7,648	ミラノ博において取り組む環境教育、国際交流活動として評価できること。
27-4-B	アジア協会アジア友の会	B	第4回アジア・ユースサミット	日本を含むアジア16カ国の青少年が日本に一堂に会して、持続可能な地域作りを目指して、共通の解決方法を見出し、実践の機会を提供する国際会議第4回アジア・ユースサミットを実施。	10,366	7,997	子供達への環境教育、国際交流活動として評価できること。
27-5-B	日本陶磁器産業振興協会	B	ミラノ万博における“食卓を通じた国際交流”出展事業	ミラノ博日本館イベント広場において、日本の食卓の合理性と創造性を紹介する「日本の器 日本の食卓」をテーマにしたイベントを実施。	11,712	7,000	ミラノ博において取り組む環境教育、国際交流活動として評価できること。
27-6-B	オイスカ	B	自然の叡智の共有及び実践のための国際環境教育事業	日本とアジア・太平洋地域の子どもたちが環境保全活動をテーマに参加し学び合う交流活動、ワークショップ、セミナーを実施。	9,367	7,493	子供達への環境教育、国際交流活動として評価できること。

事業番号	団体名	区分	事業名称	事業内容	助成対象費用	決定助成限度額	採択理由
27-7-B	小浜商工会議所	B	「ミラノ万博」国際交流子ども料理教室による環境教育	ミラノ博日本館イベント広場にて、和食に込められた「自然への感謝」という精神をテーマとし、国内外の子どもが参加する「国際交流キッズ・キッチン」を実施。	9,624	7,698	ミラノ博において取り組む環境教育、国際交流活動として評価できること。
27-8-B	中部圏社会経済研究所	B	ミラノ万博における発酵食文化の国際交流モデル事業	国際的な食文化交流を目指して日本食の特徴である発酵食をテーマにミラノでのシンポジウムやワークショップの開催、日本での関連イベントの開催を実施。	10,302	8,151	ミラノ博において取り組む環境教育、国際交流活動として評価できること。
27-9-B	アフリカ日本協議会	B	TICADVI関連アフリカ・日本の交流イベント	2016年のアフリカ開発会議(TICADVI)開催を踏まえて、現地での準備会合でのサイドイベントの開催、国内での国際交流イベントを実施。	9,862	7,890	2016年のアフリカ開発会議(TICADVI)を契機として国際交流活動として評価できること。
27-10-C	屋久島環境文化財団	C	屋久島の里の持続可能な利用形態構築事業	自然と共生しつつ長年にわたって積み重ねた屋久島の環境文化を発信し、併せて次世代に継承するための調査、人材育成、システムづくり等の事業の実施。	9,876	7,900	地域の価値を生かした環境教育、環境保全活動として評価できること。

(注)助成対象費用と決定助成限度額の百円以下は四捨五入により表示しています。

区分

A=愛・地球博記念事業を発展促進させる事業部門

B=国際交流を促進させる事業部門

C=「自然の叡智」を深化させる事業部門